

授業科目	*看護技術論演習				単位	1		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11203J		
開講年次	1	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	梶原 江美、小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子、石井 奈央							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員は、病院での臨床経験と大学での看護学教育の経験を生かして、看護における「看護技術」の意義と特徴、範囲を示し、適切な看護を実践するうえで必要な要素について概説する。</p> <p>ここでは、生活者である人間の権利を尊重して安全を保障し、安楽(快適さ)や自立に向けた援助を行う上での共通の看護技術について根拠を踏まえて学修する。具体的には、看護実践の基本となる「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」、「コミュニケーション技術」、「記録・報告」について、講義や看護実習室での演習を通して、基本的な知識・技術・態度を修得する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について説明できる。</li> <li>2. 感染予防の基本であるスタンダードプリコーションの概念について説明できる。</li> <li>3. 人を動かす、支えるために必要なボディメカニクスと安楽な体位についての基本的知識について説明できる。</li> <li>4. 療養環境を整えるために必要な基礎知識を説明することができる。</li> <li>5. 看護技術を実践する上でボディメカニクスを意識した行動ができる。</li> <li>6. 実習室を使って療養環境を整えることができる。</li> <li>7. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法について説明することができる。</li> <li>8. チーム医療に必要な記録、報告の重要性について説明することができる。</li> <li>9. 課題や演習を通して、チーム医療の基本となるルールの順守および連絡・報告が実施できる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60				20	20	100	
知識・理解 (DP1-1)	5						5	
知識・理解 (DP1-2)	50				10	10	70	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	5				10		15	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準的なレベルに加えて、並行して学んでいる他科目との関連を意識しながら、積極的に自己学習を行い、友人と意見交換や技術の練習を行うことで、看護について理解を深めることができる。また、授業を通して知る新たな看護に関する知識を自分で調べ、更なる学習のモチベーションに発展させることができる。				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について説明できる。</li> <li>2. 看護における感染予防の意義を理解して、感染予防に向けた行動ができる。</li> </ol>				

			<p>3. ボディメカニクスを意識した行動ができる。また、その修正行動ができる。</p> <p>4. 生活の中での環境アセスメントに関心を持ち調整し、療養環境調整に生かすことができる。</p> <p>5. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法について理解し、日常生活で生かすことができる。</p> <p>6. 報告・記録の目的や原理原則を理解した上で、授業に生かすことができる。</p> <p>7. 課題や演習を通して、決められたルールを守り、連絡・報告ができる。また、その修正行動がとれる。</p>	
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>【本科目のガイダンス】</p> <p>【看護技術の意義】</p> <p>看護技術の意義と特徴、範囲</p> <p>看護技術を提供するための共通言語としての看護用語</p> <p>(講義:梶原江美)</p>	<p>講義</p> <p>テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する</p>	<p>予習:教科書(基礎看護技術Ⅰ)、(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読</p> <p>-各序章</p> <p>(看護技術とは)</p> <p>復習:シラバス・授業計画表の確認、看護用語の学習</p>	60
2	<p>【感染予防技術①】</p> <p>感染予防の重要性</p> <p>標準予防策(スタンダードプリコーション)</p> <p>感染経路別予防策</p> <p>感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>(講義:梶原江美)</p>	<p>講義</p> <p>テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する</p>	<p>予習:教科書(基礎看護技術Ⅰ)の該当部分の通読</p> <p>-第2章 感染防止の技術 A~C および F</p> <p>復習:講義内容の整理</p>	60
3	<p>【安全を守る技術①】</p> <p>ボディメカニクス</p> <p>体位保持(ポジショニング)</p> <p>転倒・転落防止</p> <p>(講義:梶原江美)</p>	<p>講義</p> <p>テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する</p>	<p>予習:①教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読</p> <p>-第4章 活動・休息援助技術 A①~③(体位変換まで)</p> <p>-第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 A(体位保持)</p> <p>教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読</p> <p>-第3章 安全確保の技術 E(転倒・転落防止)</p> <p>②普段の動きを見つめる(動かない体験と楽な横向き姿勢の特徴)</p> <p>復習:講義内容の整理</p>	60
4	<p>【快適な環境を作る技術①】</p> <p>看護における環境</p> <p>療養生活と環境</p> <p>病室環境のアセスメントと調整環境の基礎知識</p> <p>(講義:梶原江美)</p>	<p>講義</p> <p>テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する</p>	<p>予習:教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読</p> <p>-第1章 環境調整技術</p> <p>復習:環境アセスメントについての課題レポート、講義内容の整理</p>	60
5	<p>【感染予防技術②】</p> <p>衛生学的手洗い・個人防護用具(マスク・エプロン・手袋)の着脱</p> <p>【安全を守る技術②】</p> <p>ボディメカニクスの原理(水平移動)</p> <p>体位変換(仰臥位→側臥位)</p> <p>(梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央)</p>	<p>演習</p> <p>【感染予防技術②】と【安全を守る技術②】の演習をクラス別に各1コマで実施する。2~4名を1組とした学生グループで、演習資料</p>	<p>予習:動画やテキストを活用してイメージをする</p> <p>復習:演習の課題レポート、自己練習</p>	90

		や課題レポートを 基に演習を行う。服 装は、長袖Tシャツ とジャージ長ズボ ン、体育館シューズ		
6	<p>【感染予防技術②】 衛生学的手洗い・個人防護用具(マスク・エプロン・手袋)の着脱</p> <p>【安全を守る技術②】 ボディメカニクスの原理(水平移動) 体位変換(仰臥位→側臥位) (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央)</p>	<p>演習</p> <p>【感染予防技術②】と【安全を守る技術②】の演習をクラス別に各1コマで実施する。2~4名を1組とした学生グループで、演習資料や課題レポートを基に演習を行う。服装は、長袖Tシャツとジャージ長ズボン、体育館シューズ</p>	<p>予習:動画やテキストを活用してイメージをする</p> <p>復習:演習の課題レポート、自己練習</p>	90
7	<p>【快適な環境を作る技術②】 ベッドメイキング (演習:梶原江美) (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央)</p>	<p>演習</p> <p>2週に渡ってクラス別に各2コマで実施する。演習しない日の2コマは空きコマとなり自己学習が可能である。演習は、2~4名を1組とした学生グループで、演習資料や課題レポートを基に演習を行う。服装は、長袖Tシャツとジャージ長ズボン、体育館シューズ</p>	<p>予習:動画やテキストを活用してイメージをする</p> <p>復習:演習の課題レポート、ベッドメイキングの自己練習</p>	90
8	<p>【快適な環境を作る技術②】 ベッドメイキング (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央)</p>	<p>演習</p> <p>2週に渡ってクラス別に各2コマで実施する。演習しない日の2コマは空きコマとなり自己学習が可能である。演習は、2~4名を1組とした学生グループで、演習資料や課題レポートを基に演習を行う。服装は、長袖Tシャツとジャージ長ズボン、体育館シューズ</p>	<p>予習:動画やテキストを活用してイメージをする</p> <p>復習:演習の課題レポート、ベッドメイキングの自己練習</p>	90
9	<p>【快適な環境を作る技術③】 シーツ交換/環境調整 (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央)</p>	<p>演習</p> <p>2週に渡ってクラス別に各2コマで実施する。演習しない日の2コマは空きコマとなり自己学習が可能である。演</p>	<p>予習:動画やテキストを活用してイメージをする</p> <p>復習:演習の課題レポート、ベッドメイキング・シーツ交換の自己練習</p>	90

		習は、2~4名を1組とした学生グループで、演習資料や課題レポートを基に演習を行う。服装は、長袖Tシャツとジャージ長ズボン、体育館シューズ		
10	<p>【快適な環境を作る技術③】 シーツ交換/環境調整 (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央)</p>	<p>演習 2週に渡ってクラス別に各2コマで実施する。演習しない日の2コマは空きコマとなり自己学習が可能である。演習は、2~4名を1組とした学生グループで、演習資料や課題レポートを基に演習を行う。服装は、長袖Tシャツとジャージ長ズボン、体育館シューズ</p>	<p>予習:動画やテキストを活用してイメージをする 復習:演習の課題レポート、ベッドメイキング・シーツ交換の自己練習</p>	90
11	<p>【コミュニケーション技術①】 コミュニケーションの種類と構成要素、関係構築のためのコミュニケーションの基本 (講義:梶原江美)</p>	<p>講義 テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する</p>	<p>予習:教科書(基礎看護技術Iの該当部分の通読)-第1章 コミュニケーション 復習:講義内容の整理</p>	60
12	<p>【コミュニケーション技術②】 プロセスレコードとコミュニケーション障害への対応の基本 (講義:梶原江美) 【記録・報告】 チームで看護を実践・継続させていくためのコミュニケーション技術(記録・報告) (講義:梶原江美)</p>	<p>講義 テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する</p>	<p>予習:教科書(基礎看護技術Iの該当部分の通読) -第1章 コミュニケーション -第3章 看護過程展開の技術D(看護記録) 復習:課題学習</p>	60
13	<p>【まとめ①:実技チェック】 既習の知識・技術を活用し、患者を迎え入れるベッドを作成する。 (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央) 【課題学習】 看護師国家試験の出題や疑似問題を通して、既習の知識の要点を整理する。</p>	<p>演習・課題学習 2日間に渡ってクラス別に各2コマで2名を1組とした実技チェックを実施する。実技チェックを受けない学生は、課題学習を行う。詳細は別途説明する。服装は、看護衣とナースシューズ</p>	<p>予習:①ベッドメイキングに必要な各単元の知識と技術の要点整理、②患者を迎え入れるベッドメイキングの練習 復習:実技チェックの振り返りと次に向けての課題の明確化</p>	100
14	<p>【まとめ①:実技チェック】 既習の知識・技術を活用し、患者を迎え入れるベッドを作成する。 (梶原江美、小田日出子、金山正子、隅田由加里、石井奈央) 【課題学習】</p>	<p>演習・課題学習 2日間に渡ってクラス別に各2コマで2名を1組とした実技チェックを実施する。実技チェックを</p>	<p>予習:①ベッドメイキングに必要な各単元の知識と技術の要点整理、②患者を迎え入れるベッドメイキングの練習 復習:実技チェックの振り返りと次に向けての課題の明確化</p>	100

	看護師国家試験の出題や疑似問題を通して、既習の知識の要点を整理する。	受けない学生は、課題学習を行う。詳細は別途説明する。服装は、看護衣とナースシューズ		
15	【まとめ②:知識・技術の整理】 看護技術論演習で学んだ内容について整理する。 (講義:梶原江美)	講義 テキストと配付資料を用いてパワーポイントで説明する	復習:講義の整理	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<p>本科目は、講義の他に看護技術の実技演習を含む授業内容となっています。講義前には、①シラバスで学習項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく、②演習項目については、技術に関するDVDなどで事前にイメージして臨み、わからない点を明確しておくようにしてください。授業後は、授業内容の振り返りとともに、技術は、根拠を踏まえて、繰り返し技術練習を重ねることで習得可能となりますので、学内外を問わず積極的に自己練習をすることを期待しています。</p> <p>また、科目で学修する内容は、看護学を学ぶ大学生として領域を問わず共通する基本的内容であり、学修の基本姿勢を学ぶ部分でもあります。授業を通して、①パソコンとインターネットを活用して、classroomのお知らせや資料の閲覧、動画の視聴ができるように準備すること、②レポートは、パソコンを使用して作成、提出できるように、基本的なレポートの書き方を学習すること、③感染症対策として、体温測定やマスク着用、手洗いなどを確実にし、健康管理をすること、④看護を学ぶ自覚をもって、ふさわしい服装や身だしなみを整えて演習に臨むことを学び、実践してください。</p>			
テキスト	<p>茂野香おる、他著:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I、医学書院、2021年 茂野香おる、他著:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II、医学書院、2021年</p>			

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>深井喜代子 編「新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 第5版」メヂカルフレンド社 2017</p> <p>深井喜代子 編「新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 第4版」メヂカルフレンド社 2017</p> <p>山口瑞穂子 監修「新訂版 看護技術講義・演習ノート上巻 第2版」サイオ出版 2016</p> <p>山口瑞穂子 監修「新訂版 看護技術講義・演習ノート下巻 第2版」サイオ出版 2016</p> <p>佐藤和良 著「看護学生のための物理学」医学書院 2014</p> <p>その他、学生が学修するにあたって有益な教材があれば、必要時紹介します。</p>
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>看護は対象である生活者としての人に関心を寄せ、関わることで生まれます。看護を行うためには、心(態度)と頭(知識)と手(技術)が必要です。また、これまでの学修とは違って、学修に終わりがありません。「難しい」「できない」とすぐにあきらめてしまわずに、「自分はどう思っているのかな、どう行動しているのかな」と自分を見つめなおして、「もう少しやってみよう」「どうしたらできるようになるかな」と自分の可能性に目を向けて考え、行動してみてください。学修課題への取り組みや用語の理解、技術の反復練習を通して、継続が力となることを実感できると思います。</p> <p>また、時代背景とともに描かれる生活史や闘病体験を記した書籍、映画など、今の自分ではわからないことを意識的に「触れる」ことで、①患者・家族の立場からその想いを「意識的に頭の中で追体験する」、②友人と意見交換をすることで「異なる視点を取り入れた視野の広がり」を感じることに繋がります。コミュニケーション技術や観察力も向上しますので、予習・復習を兼ねて実践してください。</p>
達成度評価に関するコメント	<p>評価は、筆記試験、レポート以外での提出物(講義の予習・復習課題や看護技術の演習記録)、その他(授業及び演習時の態度・参加の姿勢、実技試験)により総合的に評価します。</p> <p>【筆記試験】定期試験で60%評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験は講義内容を基本に、看護師国家試験問題も取り入れながら出題します。様々な方法を用いて出題します(例;記述式、括弧埋め、○×式、など)。</li> <li>・簡単な事例を読んで、自分が行う看護について知識を用いて論理的に説明する試験も出題します。</li> </ul> <p>【レポート以外の提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の予習・復習課題や看護技術の演習記録として、配付した課題用紙に書いて提出したものを20%で評価します。</li> <li>・提出日時を厳守して下さい。提出は必須で遅れ・未提出は減点としますので注意してください。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技チェックについて、20%で評価します。</li> <li>・授業及び演習時の態度、自己練習の取り組み、身だしなみの不適切さは減点として評価に加えます。</li> </ul>